

ことがうれしかったです。ここでハワイの人たちとの距離が一気に縮まった気がしました。

私はこの研修で初めて海外へ足を運びました。話で聞いて分かっているつもりでも、実際に足を運んで初めて理解できることがたくさんあるということに気づきました。そして自分の英語力のなさも痛感しました。しかし、大事なものは、たとえ適切な英語表現が浮かばなくても単語を組み合わせたたりして、何かしらの形で相手に伝えようとする気持ちだということをハワイでの経験から学びました。また、今回の研修は英語学習に対するモチベーションにつながりました。ハワイで過ごした9日間は私にとって一生忘れられない思い出です。



## オーストラリア留学体験記

文学部3年 北本 早絵

私は短期語学セミナーを利用し、オーストラリアのブリスベンにあるクイーンズランド大学に5週間留学しました。自然豊かな環境でとても気持ちがい場所でした。

留学での一番の思い出はホストファミリーと過ごしたことです。私のホームステイ先には母親と12歳の息子、8歳の娘、別の大学に通う日本人のルームメイトがいました。基本的に毎晩みんなで夕食を食べていました。その際マザーは「今日どうだった？」と聞いてくれました。はじめの頃は、「〇〇に行った。」「〇〇を見た。」などと簡単な返事しかすることができませんでした。しかし、毎日繰り返していくうちにもっと自分の言葉で伝えたいと思うようになりました。訪ねた場所に何があったのか、どう感じたのかなど詳しく説明しようと試みました。

マザーとは日本人女性の仕事と家事の両立の大変さや将来自分たちがしたいことについて、話すこともありました。もちろん、日本語のように、スラスラと話せるわけではありません。初めのうちは語彙力不足で言葉に詰まることもありました。それでも、簡単な表現に言い換え、

自分のできる範囲で伝える努力をしました。家族と過ごした時間は語学力の向上に役立ったと感じています。確かに、学校で文法や正しい表現の仕方を学ぶことは大切です。しかし、ファミリーとの会話はリアルな環境での会話です。間違いを恐れず話し続けたことは、とても楽しく自信につながりました。

また、マザーの提案で夕食に手巻き寿司を作りました。オーストラリアには生の魚を食べる文化はないため、具材はアボカド、チキン、きゅうりでしたが、子どもたちにとっても好評でした。ファミリーと一緒に日本の食を通じて交流ができたことは貴重な経験になりました。子どもたちには宿題の回答を確認してもらったり、テスト前にwritingの添削をしてもらったりしました。私を本当の家族のように暖かく迎え入れてくれたことに感謝しています。

留学では、旅行とは違い現地の人々と同じ生活を送ります。バスやシャワーの使い方、生活リズムや食事の違いなど戸惑うことも多くありますが、生活をするからこそ分かることも多く、オーストラリアと日本のそれぞれの良さに気づくことができました。5週間という短い時間でしたが日本では体験できない留学生生活を過ごすことができました。私は再びホストファミリーに会えるよう、現在も語学学習に励んでいます。

